

倫理学

◇教員◇

教授：頼住光子、熊野純彦

助教：岡田大助

◇学生◇

学部：17名、修士課程：6名、博士課程：7名

「倫理学」という学問に、人が抱くイメージや期待にはおそらくさまざまなものがあるだろう。日常の行為の善悪について研究するということの思い浮かべる人もあるであろうし、また、ソクラテスの生に重なるような「よき生」の追求を思い描く人もあるだろう。自らの人生についての問いを直接重ねようとする人もあるだろうし、また、今日的な社会問題への積極的な発言を期待する人もいよう。倫理学専修課程に進学してくる学生諸君の思いも、そのようにきわめて多様なものであろう。

しかし、それが文学部の中で、しかも思想系の学問分野の中での倫理学研究となると、そのあり方も限定されてくる。文学部の学問が原典テキストの精密な読解を身上とするように、倫理学専修課程の学問も、倫理学についての原典テキスト、就中古典のテキストの読解をその基本とすることになる。その点では思想史研究が中心となるのであり、現実的課題との関わりは間接的なものとどまるということになろう。そのことはしかし、倫理という言葉に対する各人各様の思いを否定するものでは決してない。むしろ古典の読解にこそ、それぞれの思いが最も豊かな奥行きをもって現実化する場面があるというのが、われわれの確信である。

したがって、倫理学専修課程は、独断と空理空論を控えるという最低限の謙虚さを要求される以外は、きわめて自由な雰囲気満ちている。かつてこの研究室の主任教員であった和辻哲郎は、日本近代において特筆すべき倫理学の体系を築き上げたが、それは、西洋思想と東洋思想の融合および規範学としての倫理学と事実の学としての諸学の融合を目指したものである。さらに、和辻は、倫理学以外に広く人文科学一般の分野でめざまし

い成果を上げたことで知られているが、この多様な学問領野に開かれているという性格は、今日においてなお生きていると言えるのである。学生の研究対象の選択も各人の大幅な自由に任されており、実際、これまでの卒業生の研究テーマも、洋の東西を問わず、また古代から現代に至るまで、まことに多彩である。

倫理学専修課程の講義・演習の対象領域は、西洋の倫理思想と日本のそれとに二大別される。倫理学がいち早く自覚的な形態をとった西洋の思想伝統を学ぶことは、日本倫理思想史を専攻しようとする学生にとっても欠かすことはできない。一方、西洋の倫理学に関心を持つ者にとっても、自らが背負う伝統との対話は必要である。相異なる領域への幅広い目配りが求められるのが当専修課程の特色である。

倫理学専修課程が2015年度に実施した全授業を、教員毎に列挙すれば、次の通りである。

関根清三教授（2015年度をもって退官）は、旧約聖書の解釈学的・思想的研究を中心に据え、キリスト教倫理全般を研究対象としている。倫理学概論(1)「倫理学の原理」および倫理学概論(2)「倫理学の展開」では、関根清三『ギリシア・ヘブライの倫理思想』（東京大学出版会、2011年）を教科書に、現代の倫理的・倫理学的状況を踏まえ、西洋と日本の倫理思想史を批判的に学びつつ、倫理の根拠と存立について哲学的に考察した。倫理学演習(1)(2)「東西の倫理思想」(1)(2)および倫理学演習(3)「倫理思想基本文献講読」では、古今東西の倫理学の基本文献の勘所を熟読する機会と、それらについて自由に討論する訓練を積む場とを提供する演習であり、倫理学概論と相補的な関係にある。倫理思想史から独自に精選し編集した原典資料集に基づいて、倫理思想の多様な形と相互の連関について、視野を広め考えを深めることを課題とした。

熊野純彦教授は、ドイツ観念論から現代のドイツ・フランス思想にいたるまでの思想史的研究をふまえながら、他者、身体、言語といった問題系、また時間、所有、自己といった主題系を、倫理的に、すなわち「人のあいだ」に根ざし、「人のあいだ」にかかわる問題群として思考することを試みている。倫理学演習(1)(2)「学問論研究」(1)(2)では、ヘーゲルの『精神現象学』を原語のドイツ語で詳細に読解した。

頼住光子教授は、日本文化の根幹を形作っている仏教思想について、道元や親鸞の著作を中心としつつも、日本仏教の全般、さらには大乘仏教の

経典論釈全般にわたって幅広く研究している。東洋倫理思想史概説(1)(2)では、大乘仏教の経論や、日本の仏教思想家の代表的著作を、原典で紹介しながら、そこに含まれている世界観、人間観等を解明することを目指した。倫理学演習(1)(2)「日本倫理思想史基礎文献講読」では、日本の倫理思想を理解する上で必須な基礎的文献として、鴨長明の『発心集』、慶滋保胤の『日本往生極楽記』、大江匡房の『続本朝往生伝』『本朝神仙伝』の講読を通じて、その人間観、世界観、真理観について解明を試みた。

2015年度の非常勤講師による講義の題目は、以下のとおりである(()内は2015年度当時のもの)。

- ・三嶋輝夫講師（青山学院大学名誉教授）の「ソクラテスからの問い、ソクラテスへの問い」
- ・高島元洋講師（お茶の水女子大学名誉教授）の「近世日本の倫理思想」(1)(2)
- ・麻生博之講師（東京経済大学教授）「近代西洋倫理思想の諸問題」
- ・荒谷大輔講師（江戸川大学教授）「現代西洋倫理思想の諸問題」
- ・中野裕考講師（お茶の水女子大学准教授）「カントと自己触発論」

このように、倫理学専修課程は、一方では古典的学問研究を尊重しつつも、他方では、哲学、社会科学、宗教学、日本思想等の諸学問に開かれた幅広い内容を持つ学問を目指しているという点で、思想系学科の中でも特徴を示していると言える。そのことは、当専修課程を卒業し、その後研究者の道に入った先輩の学問にも明らかである。そのような条件をどう生かすかは、学生諸君の自発的研究に期待されている。

なお、卒業生の進路について言えば、当専修課程を卒業した後、大学院への進学を希望する者、官公庁や民間企業に就職する者等、さまざまである。就職先も、新聞社、出版社、銀行等きわめて多彩である。